

藤沢市におけるアライグマ・ハクビシンの食性解析による人間社会への依存度

地域環境保全学研究室 10108144
古川晃太郎

1 はじめに

1.1 背景

アライグマ(*Procyon lotor*)は、食肉目アライグマ科に分類される北米原産の中型哺乳類で、日本には主にペットとして持ち込まれ、その後各地で逃亡または故意に放逐されたものが定着・野生化した。神奈川県では 1980 年代後半から本種の野生化が確認され、農作物への食害、家屋への侵入などの被害が発生している。ハクビシンは神奈川県においても、1983 年当時は相模川以西にだけ分布していたが、1992 年には相模川以东の藤沢市、相模原市等で生息が確認されている。

1.2 目的

胃内容物分析では一時的な食物しか明らかにすることができないため、本研究では炭素・窒素安定同位体を用いてアライグマ・ハクビシンの食性を解析し、人為的な食物を摂餌しているかどうか明らかにすることを目的とする。なお残飯（残飯を測定するのは困難なため、指標として日本人の毛髪を用いた）の値は和田（2013）を引用した。

2 方法

2.1 調査地概要

藤沢市は、神奈川県中央北部に位置し、北部は大和市、綾瀬市、海老名市に、北東部は横浜市戸塚区、南東部は鎌倉市、西部は茅ヶ崎市、寒川町に接している。また市南部は相模湾に面している。南東の鎌倉市に接する地域は丘陵地帯で、そのほかにも若干の起伏はあるが、市域はおおむね平坦である。

気候は、相模湾に面していることから暖流の影響を受けて、比較的夏涼しく、冬暖かい快適な環境にある。

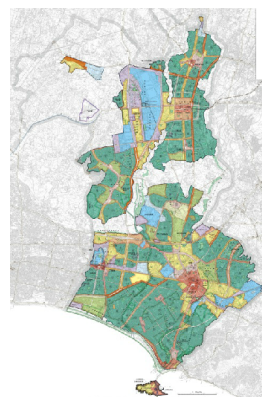


図 1 藤沢市

2.2 対象生物および受け取り

・アライグマ

成獣は頭胴長 41～60cm、尾長 20～41cm、体重 2～10kg が一般的である。体色は灰白色の場合が多いが、個体変異が有り、ほとんど黒色の個体もある。尾は長く密にふさふさとした毛が生えており、4～7 条の黒いリングが特徴的である。

森林、湿地、農耕地を含む里地や住宅地など、人間の生産・生活の場を含む幅広い環境で生息できる。

年に 1 度繁殖を行う。1 度に平均 3～4 頭を出産する。出産期は 4 月～6 月だが、この前後にずれることもある。

環境の状況に対応して柔軟に様々な餌を食べる雑食性である。

一般的に夜行性である。行動域は条件によって異なり 10ha～2000ha 以上まで様々である。（環境省）



図 2 アライグマ